

授業実践 (2) 小学校5年生「銀のしょく台」

1 主題名 広い心をもって【内容項目B-(11)相互理解、寛容】

2 教材名 「銀のしょく台」(出典『私たちの道徳 小学校5・6年』)

3 資料のあらすじ

19年の刑期を終え、行く先がないジャン・バルジャンにミリエル司教は教会で食事と寝床を準備する。しかし、ジャンは司教の大切な銀の食器を盗み、逃げる。翌日、捕らえられたジャンに対し、司教は銀の食器ももう1つ大切なものである銀の燭台もジャンにあげたものと言う。

4 ねらい

ミリエル司教の行いについて話し合う活動を通して、自分を犠牲にしてまでも相手を許すことの難しさやすばらしさに気づき、友達の過ちや失敗を広い心で受け止めようとする心情を育てる。

5 展開

段階	学習活動 ◆主な手立て	主な発問(○) 児童の発言(・)
自己を見つめる	1 資料を読んだ感想を伝え合う。 ◆資料を読ませる前にミリエル司教やジャンについての説明を行い、話の内容をつかみやすくさせる。	○ミリエル司教についてどう思いましたか。 ・自分の大切なものをあげてすごい。 ・困っている人を助けてあげるなんて優しい。
	2 自分が司教の立場だったら相手を許せるか考える。 ◆自分だったらどうするのか考えさせ、ネームプレートを黒板に貼らせる。 ◆互いの考えをグループで交流させ、全体の場で伝え合わせる。	○あなただったら、自分の大事な物を盗んだ相手を許せますか。 【許せる】 (選んだ児童なし) 【許せない】 ・大切にしてきたものだから許せない。 ・いろんな思い出が詰まっているものを盗まれるのはいやだから許せない。
	3 ジャンを許したミリエル司教の気持ちを考える。 ◆児童の意見を集約して板書でまとめる。	○ミリエル司教は、どんなことを考えながらジャンに対して「この銀のしょく台もあなたにあげたのに…」と言ったと思いますか。 ・貧しい人を助けたい。 ・困っている人を助けたい。 →①生活が心配 ・また捕まるのはかわいそう。 ・もう牢屋に入ってほしくない。 →②捕まらないように ・いつまでも幸せになってほしい。 →③これからの人生を考えて
	4 ミリエル司教の心のよさに気付く。 【書く活動①】	○ミリエル司教の姿から、どんな心が大切だと感じましたか。 ・相手を思う心 ・相手のことを自分のこととして考える心



自己の考えを広げ、深める

これからの自己を考える

【話し合い】

◆司教の心のよさを考えさせることで、相手の立場や思いを考え、理解することのよさに気付かせる。

5 本時の学習で感じたことを基に、これからの自分について考える。

【書く活動②】


◆実際の生活の中で友達の失敗を許せなかった経験を想起させ、本時の学習で考えたことや感じたことを基に自分にもできることを考えさせ、今後の生活につなげさせる。

6 ジャンのその後について知る。

◆司教と別れた後、その思いを受け、ジャンが正直な人間になったことを知らせる。


・苦しい思いをしている人や困っている人がいたとき、助けようと思う心

自分も失敗することがあるので、相手の失敗を責めるのではなく、許そうと思う心も大切だと思う。



○今日の学習を振り返って、考えたことや感じたことを書きましよう。

- ・自分が相手の立場だったらどう思うか考えて困っている人たちを助けたい。
- ・どんな相手でも相手を思う心が大切なんだと思った。
- ・これまでの自分は、いつも小さな失敗をした人に「大丈夫。」と声をかけることしかしていなかったけど、「銀のしょく台」を勉強して、相談にのることをプラスしていきたい。




[書く視点]

- ・感じたこと、考えたこと
- ・これまでの自分
- ・これからの自分

○ミリエル司教の思いは、ジャンの心に届いたと思いますか。

司教の思いがジャンの心に届いてよかった。



[授業のまとめ]

- 「自己を見つめることができたか」について
 - ・書く活動①において、相手の失敗を責めるのではなく、相手の立場を考えて行動したミリエル司教の心のよさに気付くことができました。
- 「自己の考えを広げ、深めることができたか」について
 - ・ネームプレートを使って自分の考えを示し、友達の考えに触れることで、自分にとって大切な物をジャンに渡したミリエル司教の思いを多角的に考えることができました。
 - ・グループや全体での話し合いを行ったことで、相手の立場に立って物事を考えることの大切さに気付いたり、思いを強めたりすることができました。
 - ・話し合いをグループだけではなく、2人組でも行わせることで、より多くの友だちと意見を交流させることができたと考えます。さらにより多くの考えに触れることができるような活動のさせ方を考えていく必要性を感じました。
- 「これからの自己を考えることができたか」について
 - ・書く活動②において、これからの生活の中で自分にできることや気を付けていきたいことを考えることができました。
 - ・本時の学習で学んだ心のよさを、より具体的な場面の中で自分にできることを考えさせるための手立てが必要であったと考えます。